



年頭にあたって

南富良野町議会議長 新田 信一

平成十九年の輝かしい新年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年、我が町に災害が少なく平穏な一年であったと思っておりますが、全道的には台風も少なく喜ばしいことと思つていたところ、道東地方では、大雨と竜巻の発生により、尊い生命と財産が奪われるなど、大変な被害がありました。あらためて被害を受けられた方々にご冥福とお見舞いを申し上げる次第であります。

日本全土に目を向けてみますと、小・中・高校生がいじめを苦に自殺するという問題が毎日のように報道され、どうしてこのようなことが起こるのか、今一度考えてみなければならぬと思つています。特に日本は少子高齢化社会に入っており、今後の日本社会を支える大切な子ども達です。親のしつけや学校での指導、教育委員会の対応など、いじめのない社会を作るための議論が必要ではないかと思つております。

また、県の発注工事をめぐり談合疑惑問題が連日のように報道され、相変わらずの官製談合で、知事・市長の逮捕が報じられ、憂慮する昨今かと心を痛めています。

財政再建団体となる夕張市も大きく取り上げられて、市長・議会が市民から批判を受け、責任を問われているような状況です。また、夕張市

だけが赤字団体ではない、とまで報道がされており、我が町も行財政改革等検討特別委員会を中心に議論をしていかなければならないと思つております。

暗いニュースが多い中で、平成十八年の流行語を選ぶ「現代用語の基礎知識選2006ユーキャン新語・流行語大賞」では、トリノ冬季五輪「フィギュアスケート女子で優勝した荒川静香さんの「イナバウアー」と数学者藤原正彦氏の著書から、「品格」が大賞に選ばれ、また、プロ野球で四十四年ぶりに日本一になった北海道日本ハムファイターズのヒルマン監督が叫んだ「シンジラナイ」がトップテンに入りました。また、夏の甲子園では駒澤大学附属苫小牧高等学校が三連覇こそできなかったものの準優勝する活躍をし、道民の皆さんに元氣と勇気を与えてくれたことは明るい話題でありました。

そうした状況の中で、我が町の経済状況を考えた時、農業については夏の高気圧の影響から七月後半より気温が上り、平年作と思つていましたが、米は不作と在庫の関係から大変厳しい状況となりました。また、主要作物の人参も高温と多雨により、品質にバラつきがあり厳しい状況となりました。

また、世界貿易機関（WTO）農

業交渉で、日本など食糧純輸入国の主張を批判する輸出国のオーストラリアとの二国間の自由貿易協定（FTA）交渉が行われようとしています。間税撤廃になると自給率が10ポイント下落すると報じられ、食糧基地北海道の崩壊につながると思つております。

林業については、依然として厳しい状況であります。中国の多量の買付けにより輸入材が減少し、若干国産材が上向きになっており、地球温暖化問題など森林の持つ多面的機能を今後も守り、京都議定書を達成しなければと思つております。

商工業については、国の公共事業のさらなる削減などにより、建設関係の方々には特に厳しい状況にあると思つております。また、商店を経営しておられる方々も大変な状況下にあると思つております。商工会会員皆様の協力体制など一層の努力をお願いいたします。この厳しさを乗り越えていただきたいと思います。

大変な状況の中で、新年がスタートを切ったところでありますが、「南富良野町」がさらなる飛躍をめざし、まちづくりのために努力することを誓い申し上げ、町民皆様の益々のご健康とご多幸を願ひ年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成十九年 元旦